

<p>学校教育目標</p>	<p>未来に向かって 学び続ける</p>	<p>経営理念</p>	<p><誇れる乃美尾小教育の創造> 【めざす学校像】 感動のある学校～楽しい・やさしい・元気な学校～ 【めざす児童像】 豊かな感性をもち、のびゆく子 「自ら学び 粘り強く取り組む子」「人や環境を大切に 感謝できる子」 「命を大切に し 健康で安全な行動ができる子」 【育てたい資質・能力】『言葉の力』『思考力』『主体性』『感性』 【めざす教職員像】 教育のプロとしての自覚と誇りをもつ教職員 「子供に寄り添い、学び続ける教職員」「組織の一員として協働する教職員」「信頼される教職員」</p>
---------------	----------------------	-------------	--

評価計画						自己評価				学校関係者評価		改善方策		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
							10月	2月						
確かな学力	1	○基礎学力の向上と主体的に学習に取り組む態度の育成	○児童一人一人の伸びを見据えた基礎学力の向上 ○主体的に学び「わかる」「できる」喜びを感じる算数科の授業改善 ○学びに向かう意欲の向上	・問題解決学習型の授業のモデル化 ・ノート・板書の書き方の統一 ・多様な数学的表現の場の設定 ・「めあて」と「まとめ」の整合性 ・はなまる朝会での算数科スキルの向上 ・学力が低位・中位の抽出児童の実態把握 ・「サポートシート」の作成 ・低位・中位の児童のつまずき解消のための具体的な手立て ・協働的な学び合いの場の設定	・算数科単元末テストで、到達率70%以上の児童の割合 ・標準学力調査において、全国正答率よりも20%以下の児童の割合 ・学ぶ喜びを感じた児童の割合	85%以上 20%以下 85%以上	89.2% 12月実施予定 97.8%	92.8% 11.4% 97.0%	100%	4	・単元末テストでは、後期になって高学年が目標到達率を達成する児童の割合が増えた。サポートシート活用した個別指導が成果につながった。 ・標準学力調査においては、5つの学年で全校正答率を上回ることができた。計算コンテスト等で前学年までの復習を徹底したり、はなまる朝会で授業の復習プリントを行ったりしたことが成果につながった。 ・教師の見通しをもった授業の組み立てにより、授業の中で練習問題や適用問題を児童が自分で解くことができ、「わかった」「できた」を実感する児童が増えた。	A	・学力向上に向けての様々な取組が成果につながっている。 ・全学年が意識統一して授業改善に取り組むことで、児童の学びが向上している。 ・サポートシートの活用が学力向上につながっていると考える。目標値を達成できていない児童に対して効果的な取組について研究を進めてほしい。 ・学ぶことが楽しいと考えることで、目標を達成できるのはうれしいことだと思います。	・計算コンテストを継続し、既習事項の計算の習熟の徹底を図る。 ・既習事項を復習する時間をもち、間違えやすい問題について学級で共有する。 ・指導方法の改善に取り組み、それぞれの児童に合った形で理解できるようにする。
豊かな心	2	○ルールやマナーを守り、人や環境にやさしい児童の育成	○東広島スタンダードを基盤とした生活重点目標の習慣化と徹底	・月一回の朝会での啓発活動。 ・一斉下校時の確認と評価。 ・大休憩後の確認と評価。 ・前期・後期のあいさつ名人の表彰。 ・登下校時のあいさつ指導。 ・下駄箱の靴がいつもそろっている学級や児童を紹介する。また、トイレスリッパのそろい具合を数値化し、放送で紹介し、全校でできたことの喜びを共有する。 ・児童会と連携し、児童自らの取り組みとして活動させ、評価させるような工夫をしていく。	・元気なあいさつ、返事ができる児童の割合 ・はきものをそろえることができる児童の割合 ・「あいさつや返事ができている」「学校や家庭の約束(きまり)を守って生活している」(保護者アンケート)の肯定的評価	80%以上 90%以上 80%以上	90% 98%	90% 92%	100%	4	・校内のあいさつは、以前に比べても良くなっている。朝会や一斉下校時、学級指導などで繰り返し話してきたことが成果につながっていると考える。また、校外(地域)でのあいさつについても、地域の方からのよい評価を子供たちに伝えることで、よくなるようになってきている。 ・乃美尾地域のあいさつについてのキャッチフレーズを全校で考えることで、地域でのあいさつについての意識も高まっている。地域の方と一緒に考えて決めていくことで、一体となった取り組みを来年度は進めていきたい。 ・はきものそろえについては、靴箱も、トイレのスリッパも年間を通してよくそろっている。引き続き取組を進めていきたい。 ・保護者アンケートの結果も目標値を上回っており、子供たちのあいさつができているとらえている保護者が多い。来年度は、保護者とも連携しながら、地域のあいさつをもっと盛り上げていきたい。	A	・地域のあいさつは、地域や保護者と連携しながら向上させてほしい。児童が主体となった取組があればより活性化すると考える。なぜあいさつが必要なのか児童と一緒に考えていくこともよい。 ・あいさつについては、学校と保護者、地域が協力し合い、盛り上げていけたらと考える。私たち大人も積極的にあいさつをしていきたい。 ・「はきものそろえ」は継続してほしい。	・あいさつについて、保護者に啓発する機会をとる。 ・黒瀬スタンダードの取組と関連付け、児童発信の取組となるようにする。 ・幟旗を利用し、地域と一緒に挨拶運動をするなどの地域と連携して取り組む。 ・はきもの、あいさつ共に、継続して評価の声をかけ、できている実感をもたせていく。
健やかな体	3	○命を大切に、安全な行動と、健康でバランスのとれた体力・運動能力を向上させようとする意欲と実践力の育成	○粘り強く体を鍛え、体力・運動能力の向上 ○外遊びの励行	・毎月、進行状況を報告し啓発 ・年間を通して、体育科の授業等で縄跳び(前跳び)の実施 ・自発的に外で遊べる時間を設定 ・体育朝会及び遊び朝会で遊具や運動具に親しむ機会の確保 ・体育朝会で日頃の練習の成果を披露する場の設定(縄跳び) ・縄跳びチャレンジウィークの実施 ・達成者の掲示や放送での紹介	・縄跳び前跳び(低…30秒間、中…1分間、高…1分30秒間)跳び続けられる児童の割合 ・休憩時間に外遊びする児童の割合 ・「運動や外遊びができています」(保護者アンケート)の肯定的評価	80%以上 90%以上 80%以上	70% 91%	94% 92%	100%	4	・後期も、体育科の授業・冬休みの課題・縄跳びチャレンジウィークなど学校や家庭で継続的に縄跳びに取り組む、多くの児童が目標を達成することができた。継続した取り組みにより、縄跳びの技術・体力が身について、跳び続けられる時間が伸びており、児童の自信にもつながった。 ・寒い中でも外遊びの習慣を継続することができている。異学年で交流しながら遊んでいる様子や放課後に運動場で遊んでいる様子も見られた。外遊びのおかげもあり、感染症の大きな流行がなく元気に登校していると考えられる。 ・達成状況を共有しながら、取り組むことができた。	A	・継続的な取組で技術、体力が向上していることで、目標設定値を上げてより高度ななわとびの飛び方にもチャレンジしてほしい。 ・外遊び異学年交流できるのは、小規模校の良さが出ている。 ・地域内で遊ぶ子供が少ないと感じる。	・縄跳びは、前跳びの目標値を高くして継続して取り組むとともに、後ろ跳びにも挑戦させ、体力向上に取り組む。 ・外遊びの習慣を継続できるようにする。また、異学年交流を奨励する。
学校づくり	2	○信頼される学校づくり	○保護者・地域連携と学校の取組の積極的発信 ○働き方改革の推進	・コミュニティスクールとしての使命と取組の充実 ・地域や保護者へのタイムリーな情報発信 ・授業の充実、子供と向き合う時間の確保のための業務改善や働き方の見直し ・退校時刻と時間外勤務短縮の意識化	・学校と地域との連携・活動の実施 ・月1回の発行とめざす「学校像・児童像」をとらえた記録の定期的な地域掲示 ・業績評価における教職員自己評価平均	4回以上 12回以上 3以上	地域連携4回実施 情報発信6回 3.05	22回実施 12回(予定)89.7% 保護者アンケート(1月) 3.3	100%	3 4	・学校と地域との連携活動は計画通り実施することができた。来年度は、連携団体や活動を広げることで、内容の充実を図る。 ・保護者アンケートでの肯定的評価は89.7%であった。引き続きタイムリーな情報発信を行っていく。 ・目標としていた平均値3をクリアすることができた。引き続き、子供とふれあう時間を確保することで教育の質の向上につながる業務改善への取組を進める。	A	・タイムリーな情報発信は児童や学校人ことを知る上でとても大切だ。 ・地域との連携活動は人材確保を考へて広げていくことが必要。 ・業務改善を進め、児童と触れ合う場や時間を確保し、ゆとりをもって向き合ってもらいたい。先生方が体も心も休むことが次へのステップアップにつながる。 ・業務改善に向けて保護者と協力した取組が必要と考える。	・引き続きタイムリーな情報発信に努め、信頼される学校づくりに向けて取組を継続する。ホームページでの発信について改善を検討していく。 ・子供と触れ合う時間を確保し、教育の質の向上を図るために業務改善に取り組むことを再確認し、取組を継続していく。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価
 4...目標を上回って達成
 3...目標どおりに達成
 2...目標をやや下回って達成
 1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価
 A...とても適切である
 B...概ね適切である
 C...あまり適切でない
 D...全く適切でない
 (N...判定できない)